

2020年度「校長室からの挑戦状(10/6)」

臨時号(×切: 10月12日)

表現力を磨こう!

基礎・基本をかためよう!

問1. 次の小学生の会話を読んで設問に答えなさい。

A: わり算の筆算は不思議だね。なんかしっくりこないんだよ。

B: 私は面白い方法をしてるよ。たとえば, $68 \div 4$ の筆算で, こうするのよ(右の図の②参照)。

A: 何それ? そんなことしたら, 先生に注意されるよ。

B: **今の時代, 新しいことを考えて, 新たな価値を創造することが大切なのよ。**

(1) Bさんのわり算の筆算の方法をかんけつに説明しなさい。

(2) Bさんの方法で, $135 \div 8$ を筆算で求めなさい。

	①			②	
				7	9+7=16
				9	
4	64		4	64	
	40			36	
	24			28	
	24			28	
	0			0	

問2. フランスでは, 一般的にわり算を右図のように行います。

(1) 右図におけるわり算の式, 商, あまりを各々記入しなさい。

(2) あなたが習った方法での同じわり算の筆算を行い, それと比べて感じたことを自由に書きなさい。

$$\begin{array}{r}
 73 \overline{) 612} \\
 \underline{-612} \\
 0
 \end{array}$$

学年 氏名: あくまで解答の一例です。

問1

(1)

割られる数の十の位と割る数を比較するのではなく、割る数の九九に基づき、できるだけ大きな数字の商を立てる。

割られる数との差をとり、適当な商を立てる。

商同士を足して、求める商を算出する。

(余りがある場合も同様。)

64=36+28 に分解している。

=4×9+4×7=4×16

(2)

		7 9+7=16
		9
8	135	
	72	
	63	
	56	
	7	
	135÷8=16あまり7	

問2

(1)

式: 73÷6

商: 12

あまり: 1

(2)

筆算

	12
6	73
	6
	13
	12
	1

割る数と割られる数の位置が逆である。また、商を割られる数の上ではなく、割る数の下に記入している。マイナスの引く記号が書いてあるのが分かりやすい。